

たまがさ

広報紙45号 2019年1月20日

「TAMA市民塾」発行

〒183-0056 府中市寿町1-5-1

府中駅北第2庁舎6階

多摩交流センター内

TEL/ FAX 042-335-0111

「スポット講座」(初企画・初開催)

多摩市関戸公民館ヴィータホール大会議室で「TAMA 市民塾」としての初企画「スポット講座」を、昨年11月29日(金)に87名の大勢の方々に参加いただき開催しました。

「TAMA 市民塾」は府中駅前の多摩交流センターが主拠点のため、府中での活動が主となりがちですが、より広範な多摩地域の皆様に「TAMA 市民塾」を知っていただき、活性化・活動の場を広げていくため、今回、初めて多摩市で「スポット講座」を開講しました。

講師の歴史研究家織茂一行さんに「アッそうだったのか! 平家物語『一の谷合戦の謎』」をテーマにお話しいただきました。

講座は、現存する「平家物語」は約80本(形態は二種類(ア)読み物系平家物語(イ)語り物系平家物語)あり、小説(物語)なので歴史的事実を書いているのではなく、いたるところに改変があるとの紹介からはじまりました。

物語の中の白眉ともいふべき、一の谷合戦について、平家物語諸本、九条兼実の日記「玉葉」、吾妻鏡等の文献や各研究者の著書及び実地調査をもとに三つの観点で話が進められました。



① 一の谷は何処にあったのか

→従来の須磨海岸説ではなく、神戸市兵庫区の会下山公園周辺説が有力

② 鴨越の逆落しはあったのか、逆落ししたとすれば義経か別人なのか

→源(多田)行綱が鴨越の東隣「山の手夢の口」から、逆落としに平家陣に攻め入り勝利したと文献に記されている。やがて源行綱も義経没落と共に失脚し、悲劇の英雄義経への同情と賛歌から、義経への功績に代わり、義経『鴨越の逆落し』の物語となった可能性が考えられる。

③ 教盛は熊谷次郎に討たれたのか、17歳であったのか

→(ア)には熊谷は16歳の蔵人の大夫業盛を討ちとり、教盛は皆輪の次郎・八郎兄弟に討たれたと記されており、その他、戦闘地域等からも、教盛の相手は熊谷でない可能性も考えられる。また、教盛は一の谷合戦の十数年前に若狭守に任官しており、この時、実際は二十代後半と考えられる。

物語と歴史の境を明らかにされ、より身近に「平家物語」を感じられた、あっという間の2時間でした。引続き、4月10月開講の「通常講座」、年4回「日曜講座」、「スポット講座」に皆様のご参加をお待ちしています。

取材 八束 真司

講座：ファッションとテキスタイル

～布地から知るシルクロード～

講師：宮本 享子

「テキスタイルとは何か」というテーマで2011年9月に1冊の本として今まで携わってきた仕事の整理と編集をしました。

約30年の間、テキスタイルの仕事を通じて出会ってきた人々から影響を受けたこと、考えさせられたこと、意外にも身近にある興味深い事例等々をもとに講座内容を考え、楽しく興味を持っていただくかを最大のテーマといたしました。

私とテキスタイルとの出会いの始まりは、美大を卒業し就職した大手のテキスタイルコンバーターからでした。

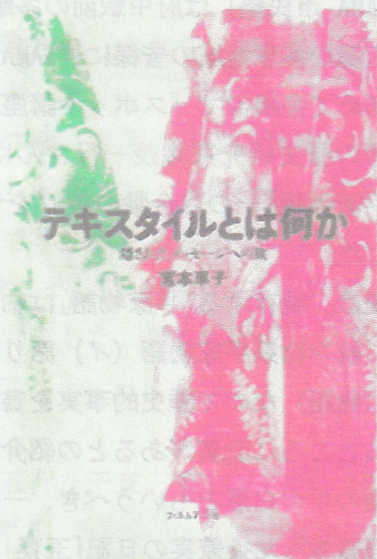
コンバーターとは産地と売り場から消費者につなげる中間に位置し、時代の流行の布を表現するためのアイデア、デザインを企画立案し開発した商品を流通させるように仕掛ける仕事です。

ファッションとテキスタイルという広大なテーマを時代感と流行を取り入れ仕事にすることの意味は、キャリアを重ねるにしたがって大変難しいと強く感じていきました。海外クリエイターとの取り組みの担当になったことで、さまざまな国の歴史や文化民族、宗教、気候風土、衣食住に対する価値観の違いを肌で感じ、お互いの信頼感を深めることによって、仕事もスムーズに進めることができました。

そんな中から面白いテーマを絞り込み、6回の講座に集約しています。

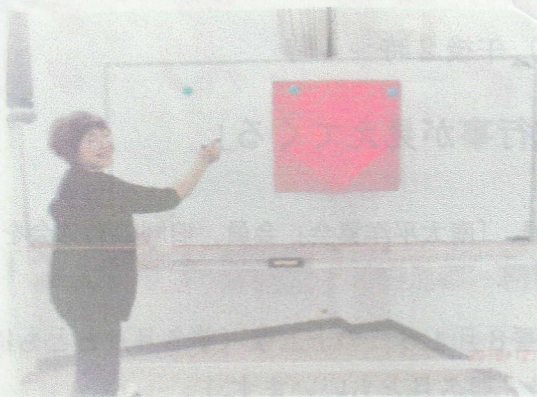
1. 世界の民族衣装を知る
2. 日本全国染織地図解説
3. 西欧キリスト教圏における「青の歴史」「ストライプの歴史」を学ぶ
4. 中国少数民族ミャオ族を中心に、お洒落な少数民族の布づくりを学ぶ
5. 中央アジア、インドの布の魅力を知る
6. 世界が驚く明治・大正・昭和初期の着物に見る色・文様の多彩さ、モダンさ、ポップな表現の大胆な表現を知る

テキスタイルという広範囲のテーマの魅力に導かれなぜ、テキスタイルがなぜ面白いのか？歴史的な視点、民族的な視点、文化的な視点、色、柄、スタイルなどさまざまな視点から楽しく、膨大なテキスタイルの世界へ導けますよう受講して下さった皆様にその魅力の一端をお伝えしたいと考えております。



講座：折紙で季節を楽しむ

講師：波多野 則子



日本には移りゆく季節の表情があります。それに本来中国から渡って来た暦法による五節句を併せ、四季折々節目を祝うという心豊かな暮しが今日も息づいています。折紙は、上級武家の世界で、和紙を使って物を包むために用いた「折形」から発展し、

庶民の遊びへと普及した日本を代表する文化とされています。今日、海外でも独自に発展したものと併せて「ORIGAMI」の呼称で世界中に広がっています。

一枚の紙を手にして、そこから様々な形を生み出してゆく。創造（想像）力が限りなく広がってゆきます。おしゃべりをしたり、汗をかきながら、一すじ一すじ折り重ね・・・楽しい時間を共有します。老若男女、国を超え多くの人々とこの小さいながらも心豊かな喜びを広めてゆきたいと思っております。



日曜講座の報告

第115回日曜講座を開催しました。

実施日 平成30年10月21日(日) 午後2時～4時

演題 「旧暦を知れば事件・伝統行事が見えてくる」

講師 山下敏夫氏 「旧暦の会」会員、「南太平洋協会」会員、旧暦の勉強会を主宰

講座当日は旧暦の9月13日で十三夜でした。(旧暦8月15日の十五夜(芋名月)とともに月を愛でる行事で、この頃に収穫される作物に因み豆名月・栗名月ともいいます。)

明治政府は、明治5年(1872年)12月3日を以って、明治6年(1873年)1月1日としました。また時刻法も一日24時間の定刻性に変える布達をしました。これが現在使用している新暦(太陽暦)の始まりです。それまでの暦(旧暦、太陰太陽暦)は月の満ち欠けを基にして作られていました。そのため太陽暦の1年より旧暦は11日程早く1年が過ぎます。そのままですと季節が早まり、農作業等に支障をきたすので季節感を正確につかめるように二十四節気が考え出されました(立春、雨水、啓蟄他)。雑節も設けました(節分、八十八夜、土用他)。また、19年に7回の閏年を設けて太陽暦との差を調整していました。例えば平成29年(2017年)の旧暦5月の次は閏5月です。そしてその後6月が続きます。

旧暦に関する沢山の内容がありました。日本の暦の変遷、陰陽五行、干支、恵方、六曜、月と潮と事件の関係、桜田門外の変と五節句等々を楽しく聞かせていただきました。

当日は大勢の方々にお出で頂きました。ありがとうございました。一部の方々に配布物が完全に行き渡らず申し訳ありませんでした。

(文 駿河哲雄)



日曜講座の予定

2019年4月21日 「武蔵野にまつわる文学」講師：井(イノモト)真弓氏
武蔵野にまつわる古典作品の紹介。武蔵野の花「紫」をキーワードに物語などに登場する女性たちの姿を辿る。また府中や国分寺の伝説に登場する「玉造小町(小野小町)」の描かれ方。

2019年7月21日 (仮)「秩父巡礼を十倍楽しく旅す」講師：服部文晴氏